童

2023 年 9 月 1 日.

亜熱帯化した日本と言い続けていますが、とうとうここまで暑さが続いています。お盆過ぎに雷雨で何とか雨が降り、ギリギリの線で干ばつは免れていますが、水不足はギリギリです。お隣の新潟県は、完全に雨が 2 ヶ月弱降っていない状況のようです。農業漁業など第一次産業は、この気候に大きな影響そして今後の対応変化が問われるようになっていくでしょう。そして、この暮らしも様々な物価高の中で、変わらざるを得ない状況です。

ガソリンにしても、40 年前は、100 円でした。様々な物価上昇を考えたら、40 年後の現在の 200 円は、そんなに驚くことはないかもしれません。気軽に買って飲むペットボトルのお茶は 150 円。この 150 円は、車のように、人や荷物を 10 キロ（燃費計算）も運んでくれるエネルギーを産み出しませんね。この 150 円の価値（ガソリンと飲料水）をどこに置くかですね。脱炭素やエネルギーに頼らない暮らしの推奨、ガソリンや電気代に対する政府の補助も、全て私たちの税金投入ですから、目先のやりくりだけでは行き詰まることは目に見えています。本当に一人一人の意識と実際の暮らしを倹約そしてミニマムに変えていく事が必要に迫まれていると思います。

2 学期が始まりました。猛暑の夏休み中、さすがに大地も日当たりは暑かったですが、木陰は耐えれる暑さ（例年よりも、とても涼しいとは言えませんでしたが）で、森や林の偉大さ、恩恵にあずかることができました。大地で、一番涼しい場所は、予想外に、高社の丘（網網広場）よりも、流しそうめんの森（どろんこプール）のようです。そして、今夏新設した、文庫上のスロープの桜の木ブランコの場所も、予想以上に涼しく、開放的で楽しい場所になりました。桜の木は、まだまだ成長途中で、更に太くなったら安心ですが、ギリギリ耐えれる太さなので、（幹がしなるから面白い）ブランコも子どもたちだったら大丈夫です。もちろん、大人も大丈夫ですが。

このように、気候の変動により、大地の遊び場や環境も、変化に即応対応していくが必要です。ガンガーや東屋に続いて、今度は、どろんこプールの森に、涼めるガンガーのような昼寝ができる東屋を作り、暑さに対応できる暮らしができるようにと狙っています。やはり、森や林を作り続けることが、脱炭素社会の一歩だと考えています。

【暗闇】

子どもは、どうして暗闇が好きなのでしょう。押し入れや暗い倉庫の隅で遊んだ記憶も大人でもあると思います。キャンプや登山でも、懐中電灯やﾍｯﾄﾞﾗｲﾄを持つだけで盛り上がります。早朝登山でも、頭にﾍｯﾄﾞﾗｲﾄをつけてあげるだけで、目がピリッと覚めて興奮してエネルギー全開になります。たぶん、暗闇に一筋の明かりが灯ると、新しい世界　未来が広がるのでしょうね。

キャンプが何が楽しいかというと、やはり夜の魅力だと思います。だんだん暗くなっていく中で、まだ必要も無い時間から、ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄをつけてはしゃぐ子どもたち（肝心な時には、既に電池が消耗！？）大人にして見れば無駄のように感じますが、子どもにしたら、未知の世界への入り口なのでしょうね。ｷｬﾝﾌﾟは、自然の暮らしへの移行です。

普段の暮らしは、昼夜の変化は無く、昼がそのまま寝るまで持続している生活です。世の中、明るくなりすぎると聞いたことがあります。特に、ネオンやコンビニ。昼間からコンビニの明るさには閉口します。ましてや、夜、こうこうと明るいスーパーやコンビニは、落ち着かなく明るすぎます。だからこそ、キャンプなどの夕暮れや夜は、子どもたちにとっては魅力的なのですね。

そのキャンプですら、機能的になり、夜も家庭のように明るい機器や道具が揃い、遅くまで明るい中で遊んでいる光景が多く見られるようになりました。その明るさで、子どもたちも興奮して寝られない　と言うよりも、暗闇の面白さや魅力を味わう機会が失われるという残念さが、私たちから見れば、もったいないと思います。子どもたちの日常から、闇が消えてしまうことは残念です。

今夏の大地のキャンプは、完全に電灯はつけませんでした。ガンガーやトイレ（ここもほんの数回）もつけることなく、夜は　7 時 20 分頃から 8 時まで、皆ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄでトランプをしたり遊んだり。8 時には、芝生に寝転び、お話を聴いてそのまま就寝という暮らし。誰も、電気をつけてくれとは言わず、当たり前のように、一筋のﾍｯﾄﾞﾗｲﾄの明かりと闇を楽しんでいました。それだけに、星空やお月さまの明かりに心を大きく向けていました。日々を追う毎に、暗くなったら眠るという暮らしが息づいていきました。子どもたちは、やはり凄いです！！　環境適応能力なのか闇に対する魅力なのか。更に、朝 4 時半には、自然に　高社の丘に一人二人とやってきて、ボーとしながら、志賀高原の山々に現れるドラマチックはモルゲンロートを楽しみ、日の出頃には、全員集まって、太陽を拝んでいるという暮らしが、自然にパターンとしてできがあがっていました。

カブトムシやクワガタの宝庫である大地の裏林。ここで、夜中にいつでも起きて好きなときに採集できるのも大地のキャンプの魅力。マニアックな子どもたちは、この森の中にシュラフを敷いて眠るほどですから。青ちゃんも、朝三時前から子どもたちとﾍｯﾄﾞﾗｲﾄをつけて虫獲りを楽しみました。闇、静けさ、虫が飛び回る音、樹液の匂い、不思議な魅力的な世界です。この世で生きて動いているのは自分たちだけ、闇夜で生きている自分たちの存在、この世界この時間帯に子どもと一緒に森を歩く不思議さ・・・・一筋のﾍｯﾄﾞﾗｲﾄの明かり。本当に、闇の世界は、大人も子どもも魅力です。そして、だんだん東の空がじんわりと明るくなり始める世界を迎える訳です。

極めつけは、ミッドナイトサイクリング。これは、全く予定にはない、単なる暑さ対策でしたが。日中 8 時間近く海まで走り、到着してそのまま海水浴を 3 時間ほどぶっ続けで遊び、7 時に夕ご飯を食べて、8 時疲れてシュラフに横になる。ところが、海辺の蒸し暑さで、横になっているだけで汗だくだく。これなら、自転車で走って風に当たった方が快適だろう、サイクリング道路が続く川沿いを 2 時間ばかり、大地へむかって走ろう、暑さからの脱却だという訳で、ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄをつけて、急遽出発。相当疲れているはずなのに、皆　盛り上がって行く気満々。この暗闇と誰もいないサイクリング道路、静けさ　快適さ　風の涼しさ、このサイクリングで一番愉しかった時間だったと、大人も子どもたちも全員、口を揃えて言っていました。公園で　10 時半頃から眠り、星が満天となる 2 時半過ぎ。4 時半頃出発予定が、今後の暑さ対策の為、3 時前には出発変更。そのまま、皆を起こすと、ここぞとばかりに皆起き上がり、すぐに出発。闇のツーリングの魅力に取り憑かれた子どもたちは、ほとんど車の通らない国道を、ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄの点のような明かりを、提灯行列のように灯しながら、一列で延延と闇の中を走っている光景は、まさに異様でありながら、ロマンたっぷりでした。新井道の駅は早朝 4 時。ここからのモルゲンロートは、本当に素晴らしかったです。折りがあったら、上越方面に向かって右側の道の駅（通常左側にはお店が建ち並んでいますが）　のトイレ横の駐車場からの眺めです。闇から解放されつつある夜明けの美しさに、子どもたちは感動していました。

大地の室内は、間接照明で暗いです。森や林も暗いです。夜　明るいということは、エネルギーを使い、人為的人工的に明るくしているということです。子どもにとって魅力的な闇を一緒に楽しむ事は、むしろ簡単なことです。夜、ロウソクやﾍｯﾄﾞﾗｲﾄで生活したら、めちゃくちゃ子どもたちは喜んでいると言う話を聞きました。ぜひ、どうぞ